

平成25年度  
入学試験問題

国 語

特待生  
後期

受験番号	氏 名

中村中学校



□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) ツバメがヒライする季節になった。
- (2) 京都には神社ブツカクが多い。
- (3) 雪のため鉄道がスندانされる。
- (4) ガードマンが入口をゴエイしている。
- (5) 不吉なゼンチヨウがあらわれる。
- (6) 道をガイトウが照らしている。
- (7) ハクアイの精神を持っている。
- (8) 落とし物をヒロウ。
- (9) 水鳥が海辺にムれる。
- (10) キビしい寒さが続く。

〔二〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文から改変・省略した部分があります。)

文から改変・省略した部分があります。)

\*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

大学の研究室の打合せテーブルで学生達<sup>①</sup>がコンビニ弁当を食べて

いるのを見て、驚いた<sup>②</sup>ことがあります。ほぼ食事が終わりにかけて

いた机の上は、コンビニのビニール袋、透明プラスチックの蓋、

ビニールラップを丸めたもの、割り箸<sup>③</sup>が入っていた袋、飲みかけの

ペットボトル、などが散乱していました。その中の黒いプラスチック

クトレーから、学生達が最後に残ったおかずとご飯を箸でつついて

いるのです。それがまるでゴミの中から食べられるものを漁<sup>④</sup>ってい

る姿に映ってしまったのでした。そんなだからでしょうか。食事を

とる学生達の姿勢も良くないものに見えました。

その後、忙し<sup>⑤</sup>さのあまり自分でもコンビニ弁当を食べる機会を

得たので、一体どうい理由によって、ゴミから漁っているように

感じられるのかを確認しながら食べてみました。ビニール袋やプラ

スチック蓋などの余計なものを最初から片付けておけば、食べはじめ

めは特に何も感じません。しかし三分の二を越えるあたりから、そ

れが徐々に「食べ残し」に見えてくるのでした。ひといきに食べず、

ふと冷静になったりするともうダメです。味の方は結構工夫してあ

るのに、不幸なことです。これは良くないと思って、研究室に古道<sup>③</sup>

具屋で買った器を提供しました。たいしたモノではありませんが、

有田焼みたいな青い柄が入った中皿です。コンビニ弁当でも、中身

をこれに並べ替えて、プラスチック容器などをすべて片付けてから

食べると、まったく別の食事に感じられます。そして、食後にいつ

もより丁寧に皿を洗ったり、拭いたり、食事が「食べる」ことだ

けではなくなり、ふるまいの連続が生まれます。お茶もペットボト

ルで飲むより、自分でいれて急須<sup>④</sup>からついだ方が、食事にふさわ

しく思えてきます。当然、食事も自分で作りたくなります。研究

室で行なう打ち上げも、校舎の一角にあるキッチンで、学生達が準

備するのが最近のはやりになりました。

このことから気付かされるのは、食事一つとっても、そこには様々

なるまいが連なっていて、それは調理道具や器などに鼓舞<sup>⑤</sup>され、

生産されているということです。民芸の器や道具なら、その感覚は

より生き活きとしたものになります。大きな民芸の器があれば、そ

こに思いっきり料理を盛ってみたくなるものです。そして人を家に

呼んで皆で食べてみたくなるものです。なぜなら民芸の品々には、

それを作った人達の手とか、思いが感じられるからです。彼らには有

名な個人作家ではありません。一つ一つの民芸の品がこの世に存在

する根柢<sup>⑥</sup>になった、それぞれの風土との関わり方や、生活のしかた

を、まさに実践<sup>じっせん</sup>してきた人達です。彼らは生産者であると同時に、その民芸の品を毎日の暮らしの中で愛用している人達です。彼らふるまいが、そしてそれを介<sup>か</sup>して人々がつながっていることの熱っぽさが、民芸の品々には畳み込ま<sup>たたみこ</sup>まれているのです。

これは A が消そうとした、B の痕跡<sup>こんせき</sup>によって呼び

覚まされる感覚です。ふるまいというのは、一度身に付けてしまうと、身体に蓄積<sup>ちくせき</sup>され、環境さえ揃え<sup>そろ</sup>えばすぐに現れてくるものです。

そして例えば食事なら、調理して、食べて、片付けて、という連続<sup>※</sup>したシークエンス、いわば動作の生態系の中で生き活きとするし、

また洗練されるものです。この感覚は当然、料理する空間や食事する空間といった、住空間<sup>※</sup>のしつらえにまで連続していきます。これに対しコンビニ弁当は、食事を栄養補給や空腹を満たす機能に純化し、食事の中にあるいろんなふるまいのうちの「食べる」部分だけを取り出してしまいます。そうやって個別に切り出された、調理する、食べる、片付けるという動作には、ふるまいとしての生命力はなくなってしまう。切り離<sup>はな</sup>されたそれぞれの部分は誰<sup>だれ</sup>かの仕事に変わってしまうわけです。当然、別の場所での話になりますから、空間との響き合<sup>ひび</sup>いもなくなってしまう。

⑤ これは大きな損失です。なぜなら洗練されたふるまいは豊かな文<sup>※</sup>化資本だからです。特に日本はそういうことに秀<sup>ひい</sup>でたものがあります。

それに対してコンビニ弁当は（こちらも日本が秀でた分野ですが）、ふるまいを分断して行くことによって、これまで蓄積されてきた文化資本を、GDPに計上されるマネー資本に振り替えようとしているのです。⑥ そうしたふるまいの分断を推し進めるのに、器の排除<sup>はいじょ</sup>が効いているのは言うまでもありません。器を排除することによって、「食べる人」を、「調理する人」や「片付ける人」でなくしてしまいます。そしてゴミの中から食事を漁っているように映ることに気付かない人々を生み出してしまいます。時間がないからそうせざるを得ないというのが合理的な理解ですが、それは同時に消費型の社会における、人間を「個人」に分断し、システムへの依存<sup>いそん</sup>性を高めるレトリックでもあります。⑦ そうそろこのあたりの社会的な仕組みに気がついて、修正をする時期に来ているのではないでしょうか。

そのきっかけに、民芸の品を一つ手に入れて、その品が作られる様子とか、それを使っている人達とか、彼らが住んでいる地域のことか、器ならそこに盛られる食事のこととか、色々想像してみるのが良いと思います。次にその品が作られた場所を旅することです。東京では買う物が無いなあと思っっている人でも、欲<sup>ほ</sup>しくなるような愛すべき物がいっぱいあることに気がつきます（私がそうでした）。それだけなら楽しいだけなのですが、同時に近代の都市計画の欠陥<sup>けつかん</sup>

も体験することになります。陶磁器などを生産する町に行ってみると、町家と工房が複合した建物が並んでいる街並みが見られます。

こういう町では、ものづくりが町を作ってきたわけで、今で言うところの職住近接の理想みたいなものがそこにあります。でも、後からやってきた、近代の都市計画の枠組みが、住むところと、生産するところを分ける思想によって組み立てられて来たので、こういう町をうまく持続させることができていないのです。生産を町の外に移し、結果、町の「芯」がなくなってしまうところがたくさんあります。コンビニ弁当のくんだりで触れた、ふるまいの分断に似ていますよね。

〔「民藝」のレッスン つたなさの技法〕より

塚本由晴 「ふるまいの美学——民藝と住空間」

※鼓舞……はげましふるい立たせること。

※痕跡……過去に何ごとかがあったことがわかるようなあと。

※連続したシークエンス、いわば動作の生態系……関係のある動作が連続して起こる流れのことを、生物をとりまく環境にたとえてこのように言っている。

※しつらえ……室内のかざりつけ。こしらえの様子。

※文化資本……ここでは「文化的財産」くらいの意味。

※GDP……国内総生産。

※マネー資本……ここでは「金銭的財産」くらいの意味。

問一 —— 線①とありますが、次のア～エの「の」のうち、「コンビニ弁当を食べているの」を見て「の」と同じ働きのも  
のを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、今日は母の編んだセーターを着て出かけましょう。

イ、このごろの父は、小説を読み終えるのがずいぶん早い。

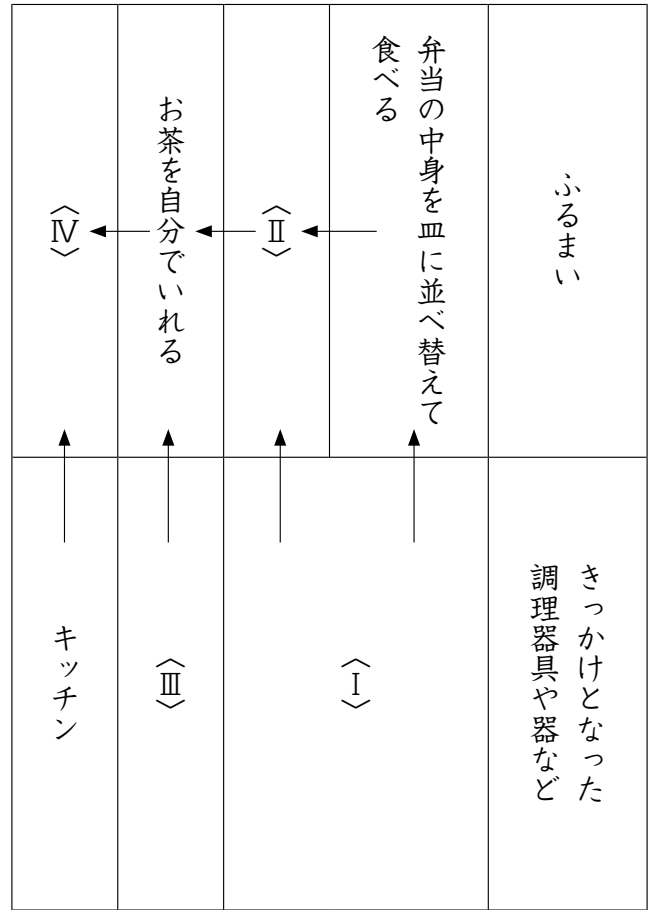
ウ、明日には友だちの本を返さないといけない。

エ、あなたもあの女優が出ている映画を見たのね。

問二 —— 線②とありますが、筆者はどんなことに驚いたのですか。六十字以内でまとめなさい。

問三 —— 線③について、次の各問いに答えなさい。

(1) —— 線③がきっかけとなって筆者の研究室に起こったふるまいの変化と、それぞれに関係する調理器具や器などを、次の表にまとめました。〈I〉～〈IV〉にあてはまる内容を後から選び、記号で答えなさい。



(2) (1)の内容から筆者が発見したことは何ですか。それが示された一文を本文中からぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問四 ——— 線④とありますが、その理由を説明したものとして最も

も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、民芸の器があれば、そこに料理を盛ってみたり、人を呼んで皆で食べてみたりしたくなるから。

イ、民芸の器の生産者たちは、民芸の器が存在する根拠を表現することで有名になってきたから。

ウ、民芸の器には、使う人の心をつかみ、大切に使用したいと自然に思わせる力が秘められているから。

エ、民芸の器や道具には、民芸の品々を生産し、愛用してきた人々のふるまいや熱い思いがこめられているから。

問五 、 にあてはまる内容を次からそれぞれ選び、

記号で答えなさい。

ア、人の手                   イ、環境

ウ、工業製品               エ、民芸の品

問六 —— 線⑤とありますが、どんなことを「大きな損失」と言っ

ているのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、例えば食事なら、コンビニ弁当によって食事の役割が栄養補給や空腹を満たす機能に限定され、ともに食事をする人とのコミュニケーションの部分がなくなること。

イ、例えば食事なら、台所で調理をし、食卓で食べ、流して食器を洗うといった、それぞれの場所にふさわしいふるまいが連続性をもって活き活きとなされることがなくなること。

ウ、例えば食事なら、調理して、食べて、片付けるという動作の連続が、食事する空間で集中的に起こり、それが結果的に人々の健康をそこなうことにつながる。

エ、例えば食事なら、洗練されたデザインがほどこされた食卓や台所で食事をする機会が失われ、食事のマナーも次第に荒けずりなものになってしまうこと。

問七 —— 線⑥とありますが、具体的にどのような状況を受け

てこう言っているのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、使い捨て容器を用いたコンビニ弁当が売られ、調理や片付けをせずとも食事をとることを可能にしている状況。

イ、器の存在感をうすめることで食事のあり方を多様にし、新たな利益を生むことを可能にしている状況。

ウ、粗末な容器で食事をすることで、生存のために必要とされる食事の価値がかえって高められている状況。

エ、お金をかけて外食をすることによって、自分でわざわざ器を買わなくても美しい食器で食事ができる状況。

問八 —— 線⑦とありますが、これまで述べてきた「社会的な仕

組み」の「修正」のために、まずできることとして筆者は二つのことを提案しています。それぞれ簡潔にまとめなさい。



問九 ——— 線⑧とありますが、本文で使われている次の語句のう

ち、——— 線⑧の思想と関係の深いものを二つ選び、記号で

答えなさい。

ア、有田焼

イ、コンビニ弁当

ウ、洗練されたふるまい

エ、ものづくり

オ、消費型の社会

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本

文を改変、省略したところがあります。)

\*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

①

一学期最後の日、大変なことが起こった。

大変なこと、というのはちょっとおおげさな言いかたかもしれない。実際には、成績が少し悪かっただけのことなのだから。

②

問題は、そのことについて、わたしとミドリさんの受けた印象が

まったく違ったところにある。ありがちな見解の相違。※ジェ

ネレーションギャップ? そう考えると、むしろわたしというより

もミドリさんにとって大変なことが起きた、とも言える。

ミドリさんというのは、わたしの義理の母親だ。

いわゆる教育ママというわけではないけれど、極度に心配性で  
過保護な、かわいそうなミドリさん。③「ままはは」という響きがまっ

たく似合わない、おだやかで優しいひとだ。今年、確か三十八にな  
る。ぱっと目立つタイプの美人ではないけれど、品のいい顔立ちと、  
つややかな黒い髪かみの持ち主だ。

わたしたちはとても仲がいい。血がつながっていないから、とい  
うだけの理由でミドリさんとわたしの仲を疑うたがひるひと(たとえば父  
方の祖母)を、わたしは心の底から軽蔑けいべつしている。

今、ミドリさんは深刻そうな表情でわたしの持ち帰った成績表をながめている。いくらじつと見ていても、そこに並んでいる数字は変わらないのに。

「そんなに気にしなくていいと思うよ？」

場を和ませるために明るく言ってみただけれど、ミドリさんは重々しく首をふる。

「優子ちゃん、そこに座ってちょうだい」

わたしはあきらめて、おとなしくミドリさんの向かいの席に腰かけた。④ 外はこれでもかというくらい晴れていて、部屋の中は明るい。

みんなみんな、と能天気なセミの声が窓の外から聞こえる。

「これじゃわたし、聡子さんに申し訳がたたないわ」

そうくると思っていたので全然驚かなかったけれど、ミドリさんの沈痛な表情はいつもわたしの気持ちをも暗くさせる。

小さい頃からそうだった。わたしが何か困ったことをしでかすと、ミドリさんはわたしの死んだ母親の名前を持ち出した。

⑤ 正直に言ってしまうと、聡子という固有名詞そのものは、ちっともわたしの心を動かさない。

生物学上の母親であり、わたしが三歳のときに病死してしまったそのひとのことを、わたしは何ひとつ覚えていないのだ。お母さんと呼ぶより聡子というほうがわたしにはしっくりくるくらいで、そ

う正直に言うのが驚かれたり、げんなりした顔をされたりする。大人はもうも感傷的になりやすい。

それよりも幼いわたしを悲しくさせたのは、聡子さん、と口にするときのミドリさんがあまりにも

I 顔をすることだった。

聡子はもういないのに、ミドリさんだけがいつまでもその影に縛られている、それは子供心にも不当なことと思えた。

ミドリさんにそんな苦勞をかける原因となったわたしの父親は、大手の商社に勤めるサラリーマンだ。今年の春から、ロンドンに単身赴任している。わたしの高校合格が決まった直後に転勤の話が出たので、わたしは断固としてついていくのに反対した。ミドリさんがついていくなら、ひとり暮らしなり苦手な祖母の家に住むなりしでも、絶対に日本に残る、と言い張った。

せっかく希望の高校に入れたのにもつたいないという気持ちもあったが、たし、大好きなこの街を離れたくないというこだわりもあったが、そこまで強硬な態度をとった一番の理由は、父に振り回されたくないからだった。わたしは父親のことがあまり好きではない。どうか、全然好きではない。わたしが血のつながりにたいした思い入れを持たないのは、こんなところにも原因があるのかもしれない。

「聡子さんが死んでから、あの子はすっかり変わっちゃってね」  
祖母が言ったことがある。

「でも、男手ひとつであんたを育てるわけにはいかないでしょう？」  
だからこのひと（祖母はミドリさんのことを名前で呼ばない。その場にいるときには「このひと」、いないときには「あのひと」と言う）と再婚さいこんしたんだよ。わたしもできるだけ手伝うとは言ったんだけどねえ。

⑥

※ぶんがく

わたしはすっかり憤慨ふんがいした。そんなことをためらいもなく口にする祖母に対して。そしてもちろん、父に対して。ミドリさんもわたしも馬鹿ばかにされていると思った。当のミドリさんかというと、嫌いやな顔をするでもなくぼんやりと微笑ほほえんでいて、それにも腹が立った。

「おばあちゃんってさ、なんであんなに無神経なんだろうね？」

祖母の家からの帰り道、ミドリさんにそう言った。

「そんなこと言っちゃいけません」

珍めづらしく強い調子でしかられて、なんだか納得なっとくいかなかった。

ミドリさんの心労をとりのぞくべく美和ちゃんが我が家わがに呼ばれたのは、その一週間後あとだった。ミドリさんは意外と行動が早い。

もちろんわたしは、家庭教師をつけるなんて面倒めんどうで気が進まなかった。でも、長い夏休みの間中、ミドリさんに聡子攻撃そうけきをかけられ続けるのも嫌だった。それに、高校に入って早々にこの成績では、やはり少しまずいかもしれないとも思った。ミドリさんに影えい響きやうされたわけではないけれど。

「先生がいらっしゃるから」

その日、ミドリさんはお菓子かしを買いに行き、新しいスリッパをおろし、玄関げんかんに花かまで飾かざった。リビングでテレビを見てみると、ほら優子ちゃんも自分の部屋をかたづけ、と追おい払はらわれた。はりきっているときのミドリさんに

Ⅱ をさすのは、あまりかしこいことではない。

わたしはおとなしく部屋に避難ひなんし、ベッドに寝転ねころんで漫画まんがを読んだ。階下から、ごおんごおんと掃除機そうじきの音が聞こえてくる。

そういえば、この家に人が訪ねてくるなんて何年ぶりだろう。

父もミドリさんも家に人を招かないし、わたしの友達ともだちが遊びに来ることもめつたになかった。友達がいないわけではないけれど、小学校も中学も私立の女子校だったので、近所に住んでいる子がいないのだ。

クラスメイトの中でもわたしの家は特に学校から遠く、電車とバスを乗りついで二時間もかかる。その距離きょりが、高校まで一貫教育いっかんのその学校を出て高校受験することに決めた大きな理由だった。ふんわりとのどかなお嬢じょうさん学校らしい空気を、わたしは決して嫌きらいではなかったのだけれど。

九年間いっしゅう一緒に過すごしてきた級友たちとの別れはつらかった。中学の卒業式では、クラス中の子と一緒に記念写真を撮とりまくった。わ

たし以外のみんなは、また四月から同じ場所で同じ友達との学校生活が始まるのだから、卒業といってもものんびりしたものだ。泣いていたのは、わたしと、わたしと特に親しかった何人かの女の子たちだけだった。それから、もらい泣きして涙ぐんでいるミドリさんも。

「学校が違って一緒に遊ぼうね」

わたしたちは約束しあい、事実、何度か誘いあわせて遊びに行った。でもなんとなくお互いに居心地が悪く、そのうちメールのやりとりも疎遠になった。

小学校受験は、祖母の意向だった。さすがにそのときには祖母や父に対して反抗心などなかった幼稚園児のわたしは、言われるままにテストを受けて無事に合格し、みんなにほめられて得意でさえあった。

「聡子さんが喜ぶだろうねえ」

祖母は涙までうかべていた。聡子もその学校の出身なのだとなんしはそのとき初めて知った。

それにしても、実の娘でもないというのに、なぜ祖母はあんなに聡子のⅢを持つのだろう。わたしにはよくわからない。

普通、嫁と姑※というのはいがみあうものじゃないだろうか？

よくドラマでもやっている。



何気なくそう考えて、

「あぶないあぶない」

つい、声が出た。ドラマでは、義理の母娘だってよくいがみあっている。

先入観はものごとをややこしくする。わたしは、そういう大人にだけはなりたくない。

(瀧羽麻子『うさぎパン』)

※ジェネレーションギャップ……世代による物の見方・考え方の違い。

※憤慨……ひどく腹をたてること。

※姑……ここでは夫の母のこと。

問一 —— 線①とありますが、これを言いかえるとしたら、この

場合次のどれが最もふさわしいですか。一つ選んで記号で答えなさい。

ア、終業式が行われた日

イ、明日から夏休みという日

ウ、山のような宿題が出された日

エ、成績表が配られた日

問二——線②とありますが、どのように違うのか七十字以内で説明しなさい。

問三——線③とありますが、この表現から「わたし」は「ままはは」という言葉にどのような印象を持っていることがわかりますか。次の中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、気位が高く、無愛想な性格。
- イ、意地が悪く、きびしい性格。
- ウ、ぶっきらぼうで、はずかしがちな性格。
- エ、細かなことまで気にかけて、心配する性格。

問四——線④とありますが、この描写はここでの場面にどのような影響をあたえていると考えられますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、窓の外で能天気な鳴くセミを描き、自分の成績になんとも思っていない「わたし」と重ねている。
- イ、ひと夏の情景を描くことで、この出来事がこの後どのような状況にさせたかを回想的に思い出させようとしている。
- ウ、外の状況を正確に描くことで、「わたし」とミドリさんの心の内をさらけだそうとしている。
- エ、周囲の様子が明るく描き、ミドリさんの深刻さと「わたし」の気持ちの暗さをきわ立たせている。

問五——線⑤とありますが、それはなぜですか。その理由を二つあげて、それぞれ三十文字以内で説明しなさい。

問六 I にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア、さびしそうな      イ、楽しそうな

ウ、うらめしそうな      エ、めいわくそうな

問九 ★について、次の各問いに答えなさい。

(1) ここでの「先入観」とはどのようなことですか。三十字以内で説明しなさい。

(2) どのようなことに対して「あぶないあぶない」と言っている

のですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、ミドリさんをよく思っていない祖母に対して憤慨している

にもかかわらず、自分もミドリさんと祖母のいがみあいを

認めようとしていること。

イ、ドラマではよく家族の問題を取りあげていることを思い出

し、自分もミドリさんに聡子攻撃をされてミドリさんのこ

とを少し嫌に思ってしまうようになっていたこと。

ウ、日ごろ、ミドリさんと自分の関係を先入観で見ると人を軽蔑

しているにもかかわらず、自分も聡子と祖母の関係を先入

観で見ようとしていたこと。

エ、「ままはは」であるミドリさんや、ミドリさんを認めない

祖母などに囲まれている自分を、ドラマに登場するヒロイ

ンと感じてしまったこと。

問七 —— 線⑥とありますが、「わたし」が祖母に憤慨した理由

についてくわしく説明した次の文の空らん適切な内容を補

いなさい。

父は男手ひとつで子供を育てるわけにはいかないのです、ミドリ

さんと再婚したという祖母の言葉の背後に  と

いう思いが感じ取れたから。

問八 II、III にあてはまる語をそれぞれ答えなさい。

